

宗像市の家計簿

(令和4年度決算)



宗像市経営企画部財政課

宗像市の各会計と決算額について

市が仕事をするために必要なお金を管理する財布を「会計」といいます。

今回ご紹介するのは、こちら

一般会計

教育・福祉や道路・公園の管理など、市の基本的な行政サービスを行います。



特別会計

特定の収入で特定の事業を行います。
国民健康保険や介護保険の事業を行う会計などがあります。

企業会計

主に利用者からの料金収入で事業を行います。
下水道事業を行う会計があります。



令和4年度決算額

(億円)

区分	歳入	歳出	差引
一般会計(1)	441.7	419.7	22.0
特別会計(5)	207.9	203.8	4.1
企業会計(1)	30.9	36.6	▲ 5.7
合計	680.5	660.1	20.4

収入の種類や使い道などに応じて会計を分けることで、分かりやすく、収支が明確となるメリットがあります。

()の数字はそれぞれの会計数

R4年度のお金の使い道について

一般会計の決算額は**419.7億円**となり、次のような市民サービスを行いました。

民生費

福祉の充実に

163.7億円

高齢者・障害者福祉、
子育て支援など



拡充した認定こども園
「いちごいちえん」の様子

妊娠期から子育て期までの
切れ目のない伴走型支援体制の
整備や保育所等施設整備、
保育所等施設整備、保育士等
確保支援を実施

教育費

教育・文化の振興に

52.7億円

小中学校の運営、文化、ス
ポーツの振興など



建設中の城山中学校の現在の様子
(9月28日現在)

GIGAスクール推進のため、
デジタル教科書や大型提示
装置などを導入

児童の安全管理のため、防
犯カメラを私立学校に設置

城山中学校の整備を実施

衛生費

環境・衛生の向上に

40.3億円

ごみの収集と処理
予防接種、環境保全など



二酸化炭素を吸収する資源として注
目される海草、海藻の調査を実施

公共施設への再生可能エネ
ルギー導入に向けたポテン
シャル調査を実施

土木費

道路・公園の 整備と管理に

24.8億円

道路や橋、公園の管理など



釣川に架かる赤間大橋の
橋梁長寿命化工事

幹線道路などの舗装打換や
生活道路の保全を実施

下水道使用料の減免を実施

総務費

市役所の管理や 市政運営に

65.9億円

市役所の維持管理や
コミュニティ活動など



コミュニティ研修会（円卓会議）の様子

各種行政サービスの予約、
申請、アンケート等を電子
申請化

庁舎別棟の建築に向けて、
基本・実施設計及び造成工
事を実施

農林水産業・商工費

産業の振興に

22.4億円

農地や漁港の管理
農林水産業の活性化
商工業・観光の振興



シェフによるメニュー開発に使
われた市特産品の鐘崎のサワラ

農地の集積や機械設備の導
入、鐘崎漁港への高度衛生
管理型荷さばき所整備など、
生産基盤を強化

農水産物の高付加価値化、
「宗像ブランド」の確立を
目指した販路拡大を推進

消防費

消防に

11.7億円

消防団や消防施設の
管理運営、防災対策など



宗像市消防団第12分団ホース車の
更新を実施

水災害に強い都市の実現に
向けた浸水対策を検討する
ため、雨に強いまちづくり
ビジョンの策定に着手

個別避難計画策定モデル事
業の実施



公債費

借金の返済に

35.6億円

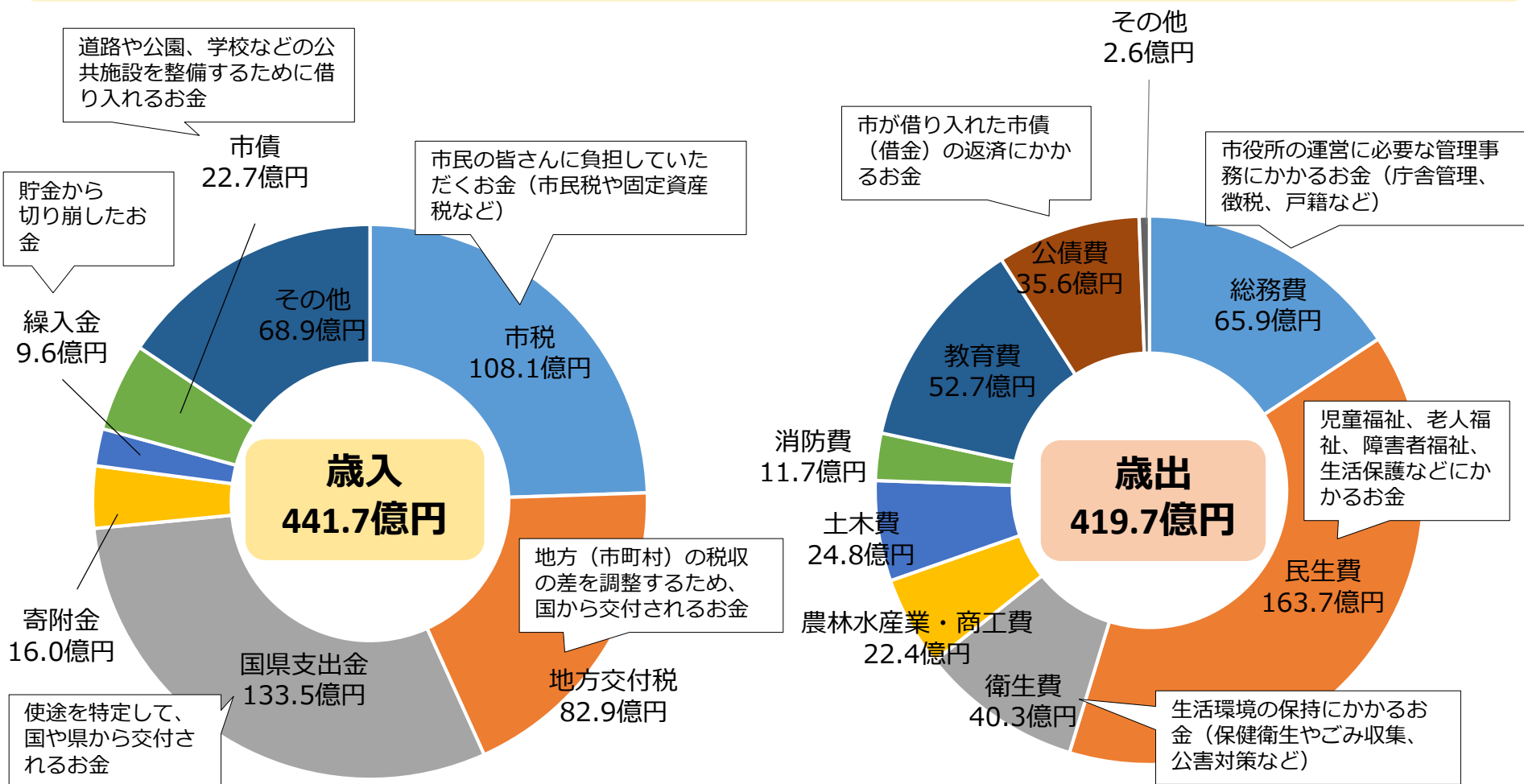
市が借り入れた市債の
償還元金と利子

その他

2.6億円

一般会計決算額について

令和4年度の一般会計決算額は次のとおりです。



本市では医療や福祉に必要な費用や施設の維持更新にかかる費用などの将来的な財政負担が予測されます。今後これらに対応し安全安心な市民生活の確保のため安定的な財政運営を図ります。

一般会計決算額（特徴）について

城山中学校の整備事業をはじめとした投資的経費の増加等により、歳入額、歳出額ともに前年度を上回りました。

歳入 441.7億円で、前年度に比べて11.1億円増えました。

市税（市民税・固定資産税など）は、108.1億円でした（前年度比 **+3.5億円**）

国から交付された**地方交付税**は、82.9億円でした（前年度比 **▲0.8億円**）

用途を特定して国や県から交付された**国県支出金**は、133.5億円でした（前年度比 **▲5.9億円**）

全国から支援いただいた**寄附金**（ふるさと寄附など）は、16.0億円でした（前年度比 **+1.8億円**）

基金（貯金）を取り崩した**繰入金**は、9.6億円でした（前年度比 **+1.1億円**）

金融機関から借り入れる**市債**（借金）は、22.7億円でした（前年度比 **+2.2億円**）

歳出 419.7億円で、前年度に比べて14.3億円増えました。

総務費（庁舎管理費用や徴税、戸籍などに必要な費用）は、65.9億円でした（前年度比 **▲0.4億円**）

民生費（福祉に必要な費用）は、163.7億円でした（前年度比 **▲7.7億円**）

衛生費（保健衛生やごみ収集などに必要な費用）は、40.3億円でした（前年度比 **+0.2億円**）

農林水産業・商工費（産業振興に必要な費用）は、22.4億円でした（前年度比 **+0.3億円**）

土木費（道路や公園の管理・整備に必要な費用）は、24.8億円でした（前年度比 **+4.1億円**）

消防費（消防や防災対策に必要な費用）は、11.7億円でした（前年度比 **▲0.6億円**）

教育費（教育や文化・スポーツの振興に必要な費用）は、52.7億円でした（前年度比 **+9.8億円**）

公債費（市が借り入れた借金の返済金）は、35.6億円でした（前年度比 **+9.0億円**）

宗像市の決算を家計簿におきかえてみると…

一般会計の歳入を年収480万円（月収40万円）の家庭におきかえた時の家計簿は次のとおりです。

収入（480万円）

給料
250万円
(20.8万円/月)



市税、地方交付税等

医療費や家の改修など
に対する助成金
145万円
(12.1万円/月)



国県支出金

家の改築のための
ローン（借金）
25万円
(2.1万円/月)



市債

その他雑入
50万円
(4.2万円/月)

諸収入、寄附金等

貯金から切り崩したお
金
10万円

(0.8万円/月)

繰入金



差引24万円
(黒字)

支出（456万円）

食費
46万円
(3.8万円/月)



人件費

医療や保育料など
121万円
(10.1万円/月)



扶助費

ローンの返済など

公債費

39万円
(3.3万円/月)

リフォームや車の買い替え
など
46万円
(3.8万円/月)



投資的経費

光熱水費、雑費など
78万円
(6.5万円/月)



物件費等

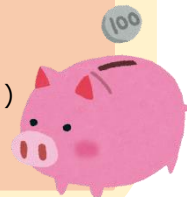
家族への仕送りなど
106万円
(8.8万円/月)



繰出金、補助費等

貯金
20万円 (1.7万円/月)

積立金



義務的経費

◆資産等の状況 預貯金（基金残高）247万円/ローン残高（市債残高）235万円

家計簿をもう少し詳しくみてみると… (10年前との比較)

10年前の平成24年度の「むなかた家」家計簿（宗像市決算）と主な項目を比較すると、医療費（扶助費）に係るお金に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕送り（繰出金、補助費等）に係るお金が増えています。
 支出総額は10年前と比べて約100万円増えています。（平成24年度363万円 → 令和4年度456万円）

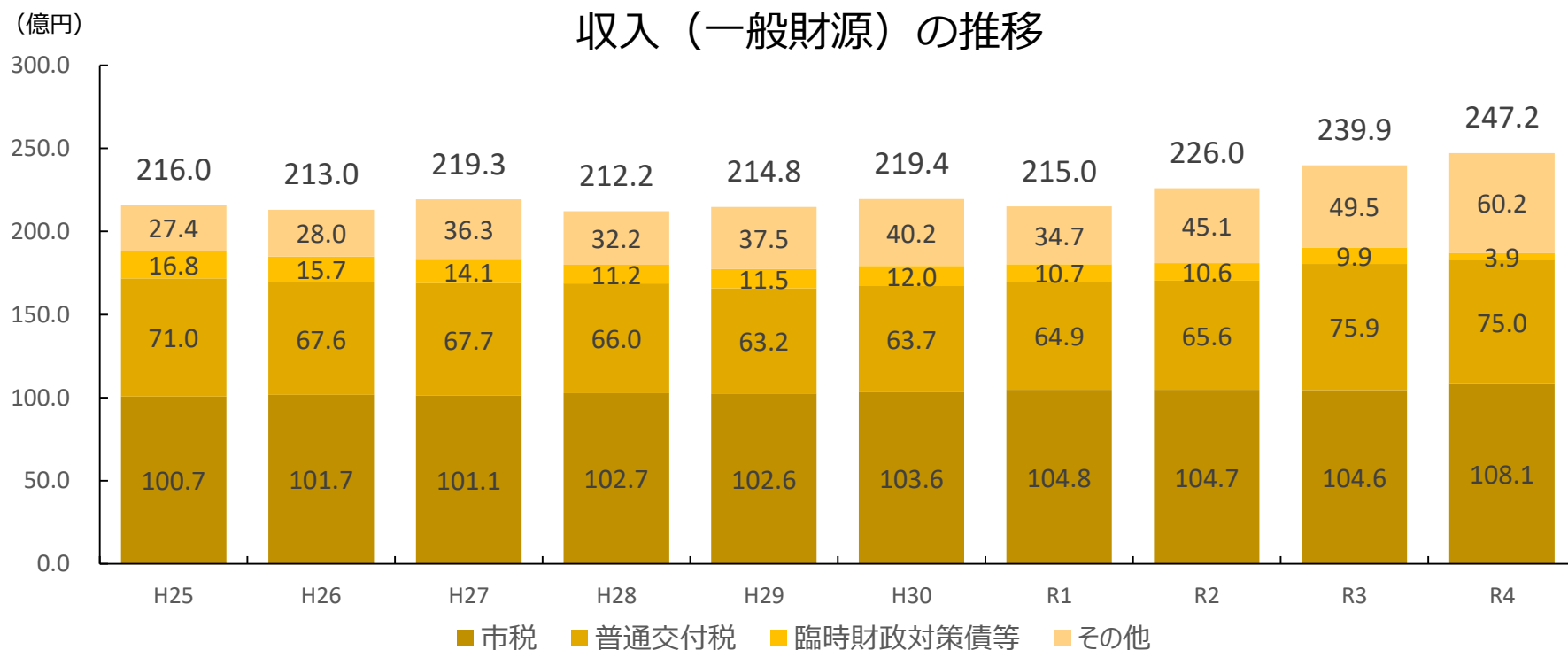
		10年前 (平成24年度)		現在 (令和4年度)	
収入	給料など (市税、地方交付税、使用料など)	219万円	→	250万円	(+31万円)
	雑収入 (寄附金、財産収入、諸収入)	17万円	→	23万円	(+6万円)
	貯金取り崩し (繰入金)	4万円	→	10万円	(+6万円)
支出	食費 (人件費)	51万円	→	46万円	(▲5万円)
	医療費など (扶助費)	115万円	→	121万円	(+6万円)
	仕送り (繰出金、補助費等)	62万円	→	106万円	(+44万円)

宗像市の財政状況について（収入）

収入のうち、市の裁量で自由に使えるお金である一般財源について説明します。一般財源の中でも重要な財源である市税は、毎年約100億円で推移しています。

令和4年度は、納税義務者が増えた結果、「市民税（個人）」が増加しました。新築家屋の増等による固定資産税の増加とあわせて、市税総額は前年度から3.5億円の増となりました。

今後、人口等の大きな増加や市税の大幅な増収は見込まれないと考えています。そのため、国や県の補助事業の活用、ふるさと寄附などの確保に努め、自治体の財政基盤を強化していきます。



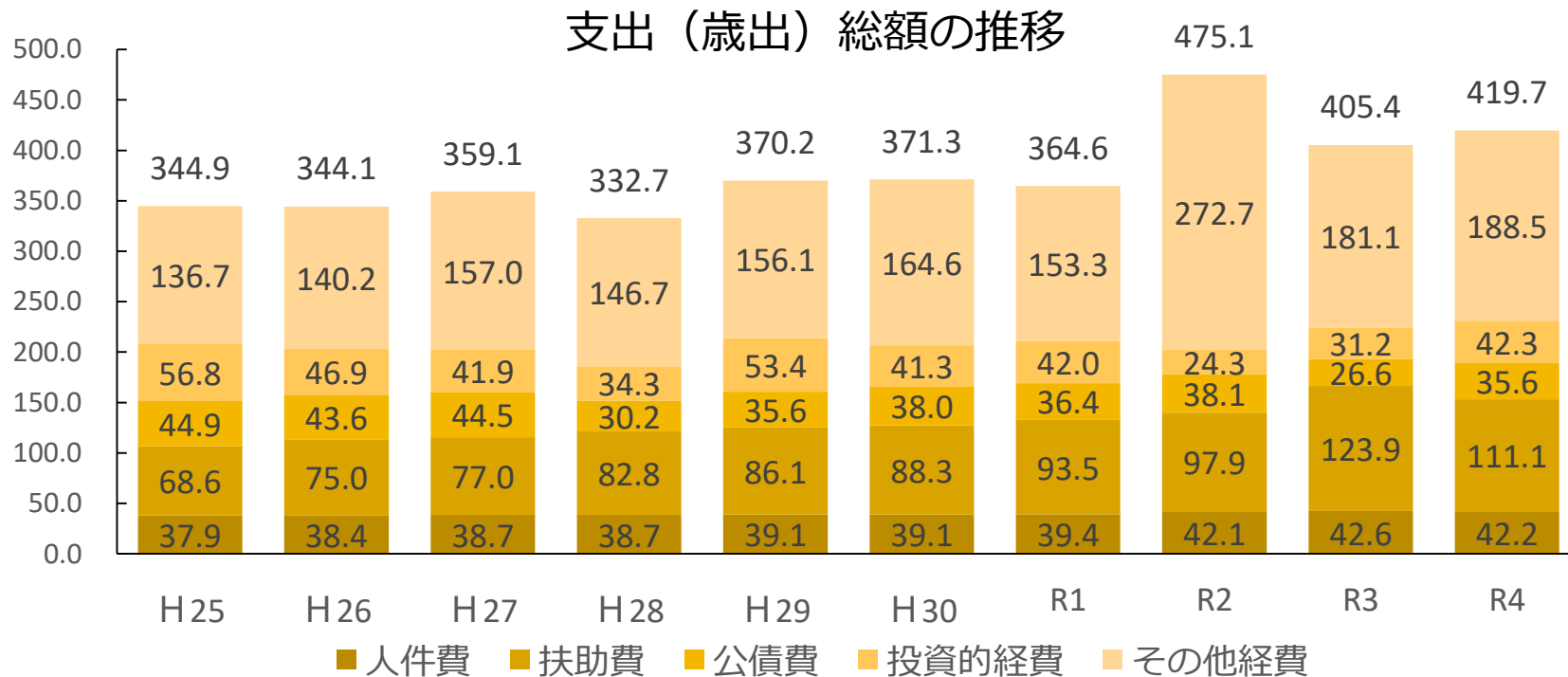
宗像市の財政状況について（支出）

宗像市の支出（歳出）総額について説明します。子ども、高齢者、障がい者などに対する福祉のために必要な費用（扶助費）が年々増加しており、収入に大きな伸びが見込まれない中で、新しい事業への投資に使えるお金が少なくなってきています。

令和4年度は、城山中学校の整備をはじめとした公共工事に係る費用（投資的経費）が増加しています。また、新型コロナウイルス感染症関連経費や物価高騰対策関連経費といった費用も増加しています。このような厳しい財政状況の中でも行政サービスが停滞しないような安定的な財政運営に努めていきます。

(億円)

支出（歳出）総額の推移

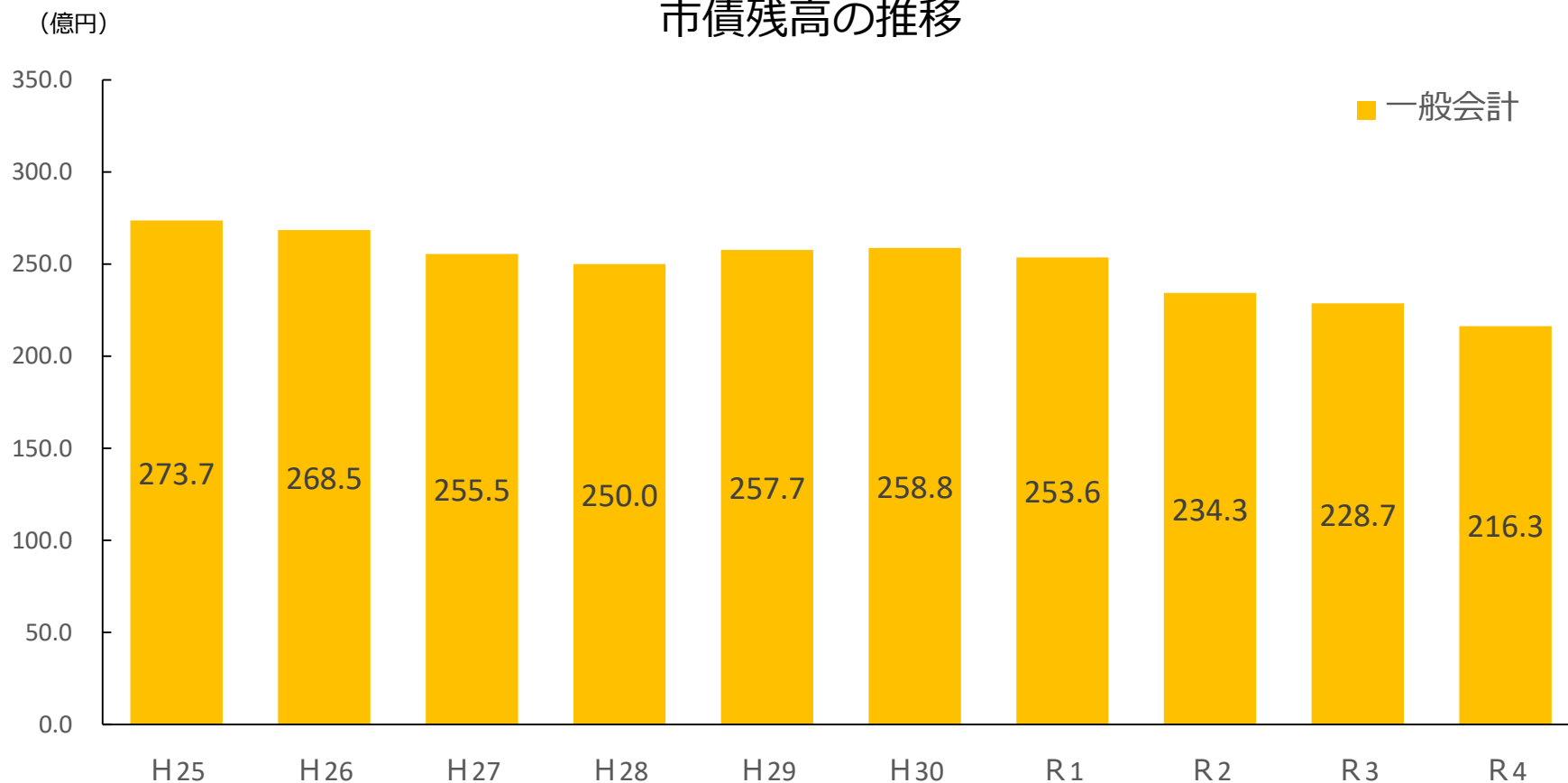


宗像市の財政状況について（借金）

宗像市が抱える借金（市債）は、約216.3億円です。 ※令和4年度末市債残高（一般会計）

道路や小中学校の改修、コミュニティ・センターの建設などに市債を活用して事業を行ってきました。何十年もの長期にわたり利用される公共施設は、将来にわたって公共施設を利用するみなさんにも公平に負担してもらおう考えから借金（市債）をして整備を行っています。

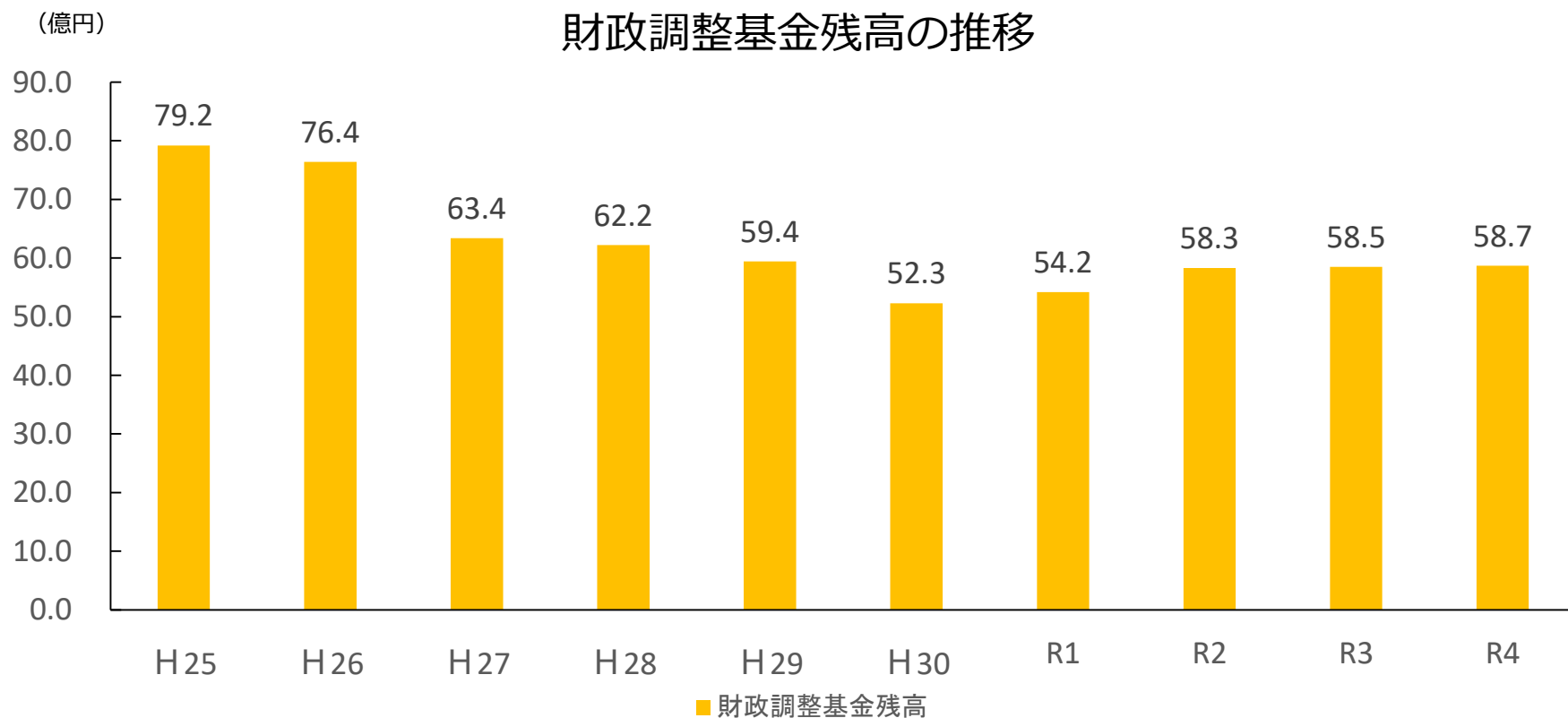
市債残高の推移



宗像市の財政状況について（貯金）

財政調整基金とは、市の財政運営において年度間の財源の不均衡を調整するための貯金（基金）です。財源に不足が生じる場合においては、この基金を取り崩しながら財政運営を行っています。

令和4年度は、当初予算編成時、不足する財源に対して財政調整基金を取り崩す予定でしたが、市税収入の回復や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などにより一般財源が確保できたため、結果的に取り崩さずに済みました。そのため、前年度より0.2億円増加しています。



宗像市の財政状況について（他市との比較）



【市債】

令和3年度末において、宗像市の市民一人あたりの市債残高は、約23.5万円です。

県内27市の他の市と比べても、低い水準（2番目）にあり、将来世代への負担は、比較的低い状況にあります。

【基金】

令和3年度末において、宗像市の市民一人あたりの財政調整基金残高は、約6.0万円です。

県内27市の他の市と比べて、14番目に位置しています。新型コロナウイルス感染症対策などの不測の財政需要への活用を踏まえると、現状のように一定程度の残高維持に努める必要があります。





今後の財政見通しとして

- ・ 伸び続ける医療や福祉に必要な扶助費
 - ・ 増加する国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療への公費負担
 - ・ 物価高騰や賃上げなどによる管理コストの増加
 - ・ 学校の建替工事などの計画的な維持更新
- ・・・等といった歳出の増加が見込まれます。

そのため

財源確保を行いつつ、行財政改革による既存事業の見直しにより、経常的な経費の圧縮に努め、安定的な財政運営を図っていきます。

そして



市民生活の安定を確保しつつ、人材育成をはじめとした将来へのまちづくりへの投資をすすめ、誰もが住み続けたい安全安心の「定住都市むなかた」実現に向けて取り組みます。

宗像市の財政状況は市ホームページ
「市政情報」>「市の財政」でもご覧いただけます。